

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

中小企業・小規模振興条例制定へ 6月議会終わる

園児へのペナルティ撤回を、3議案に反対

6月議会は6月19日より7月9日まで行われ、45の議案の審議、また、請願・陳情や議員提案意見書案が審議されました。

共産党市議団は、制定を求めていた「中小企業・小規模企業振興条例」、その他「会計年度任用職員制度にかかわる条例」など、42議案に賛成しました。なお、3議案については、最終日、橋祥朗市議が市議団を代表して反対の討論を行いました。紹介します。

①特定屋外タンク貯蔵所の設置手数料を、消費税増税にかかわって増額する議案については、実質賃金は上がらず、景気も決して良

くない経済の状況の中で、消費税の増税はやめるべきで反対。

②「松江市家庭的保育事業等の設備及運営に関する基準を定める条例の一部改正」については、待機児童の解消のためには、国の基準を満たした認可保育所の増設が必要。しかし、国は基準を緩和して民間業者に門戸を開くことを推進し条例改正を押し付けている。保育の質の低下など懸念があり反対。

③「松江市立幼稚園・幼児園通園バスの運行に関する条例の一部改正について」は、この改正案では、第7条で「市長は、納付義務者

が使用料を納付期限までに納付しないときは、当該納付義務者の園児に係る通園バスの使用を停止することができる」としている。委員会の質疑で執行部は、

実際には園児のバス利用を停止することは考えていないとの答弁でしたが、保育料を無償化し、子育てを支援する流れから、「何の責任もない」園児に対するペナルティを課す第7条は撤回すべきで反対、など主張しました。

ハンセン病患者家族の救済を

続いて橋市議は、委員会で不採択となった請願1件および陳情1件について、採択すべきと次のように主張しました。

「請願案件は、ハンセン病隔離被害の救済対象として最後まで残された家族被害に対する救済を求めるもの。この家族被害も、ハン

セン病隔離被害の根源である『らい予防法』によってもたらされたもので、総務委員会審議の時点では熊本地裁で係争中だった。しかし、6月28日、地裁は家族被害を認め、賠償を命ずる判決を下した。家族被害救済に政治の責任を果たすうえでも、請願を採択することが当然」と訴えました。



空中給油機・輸送機「KC46A」

軍事的強化が進む美保基地

6月16日(土)松江市八束町で、第十九回美保基地飛行場にかかわる意見交換会が開かれ、中四国防衛局、美保基

地など自衛隊関係者と、八束町自治会合会の役員が参加、橋祥朗市議は傍聴しました。意見交換会では、中四国防衛局から、空自美保基地における空中給油機・輸送機「KC46A」の配備計画について報告がありました。

平成28年に3機配備する計画で、現在2機取得する予算が計上されており、令和2、3年で配備される予定が、平成30年12月に閣議決定された新たな防衛計画大綱で、令和4年以後に新たに4機追加配備することとなり、合計6機の配備となること。

理由は我が国を取り巻く安全保障体制が不確実性を増していることでした。大型輸送機C-2も、現在8機配備されており、令和元年、2年で2機配備され、10機体制となります。

こうした美保基地における軍事的機能の強化については、鳥取・島根関係自治体や境港市の自治会にも説明会が開かれています。広がる騒音不安や、大型輸送機や空中給油機の配備で軍事基地としての機能が強化されて、海外での紛争地域への自衛隊派遣につながるのではとの強い懸念の声が寄せられています。

(橋 祥朗)

つれづれ 徒然

松江は何で食べているまちですか、と聞かれると答えに窮します。城下町だった県庁所在地で、観光・農業・IT・製造業があります、といっても、しつくりきません。松江の経済はどういう構造になっているのか、長い間誰も語ってきませんでした。暮らしを支える土台になる大切な課題なのに、新しい動きも始まりました。7月9日の松江市議会本

会議で、「松江市中小企業・小規模企業振興基本条例」が全会一致で可決・成立しました。「中小企業・小規模企業は社会の主役であり、地域社会や市民生活に貢献しているという認識のもと、これらの振興が市民の生活を豊かにするものであることを地域で共有するため、この条例を制定する」とうたっています。小規模企業が入っているのがミソです。理念条例なので、本当に実効性あるものにしていくためには、これからの私たちの運動にかかっています。この条例制定に中心的に関わってこられた島根大学の藤本晴久先生が、「松江の産業政策を考える」と題して講演されます。7月27日(土)午後2時から県民会館307号室で。松江は何で食べていくべきか。歴史と自然の資源が豊富な松江で、中小・小規模企業がどんな活動をしていくか。一緒に考えてみませんか。(和)